

ユニバーサルウェアとしての浴衣

清 水 裕 子
佐々木 和 也

宇都宮大学教育学部紀要
第61号 第1部 別刷
平成23年（2011）3月

Japanese Dress, *YUKATA* for Universal Wear

SHIMIZU Hiroko and SASAKI Kazuya

ユニバーサルウェアとしての浴衣

Japanese Dress, *YUKATA* for Universal Wear

清水 裕子, 佐々木 和也

SHIMIZU Hiroko and SASAKI Kazuya

キーワード：浴衣、和服、ユニバーサルデザイン、ユニバーサルウェア

1. はじめに

ユニバーサルウェアは、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた衣服である。ユニバーサルファッションという言葉を用いる場合もあるが、本報では、広く衣服ということで、ユニバーサルウェアという言葉を用いることにする。

ユニバーサルデザインとは、「特殊なデザインや既存のデザインに対する変更を行うことなく、最大限可能な限り、すべての人々にとって使いやすい製品、環境を追究したデザイン」ということである[1]。

「すべての人々にとって使いやすい製品、環境を追究したデザイン」とはいつても、ひとつのもので、すべての人にとってよいものは存在しないであろう。とくに衣服については、「すべての人」ではなく、個々を大事にすることを強調した、「一人ひとりの人」という言葉を使う方が適していると思われる。一人ひとりの人の心や体の状況によって、それぞれの人にやさしいものをつくっていくことが、ユニバーサルデザインである。そのやさしいとは、機能的な使いやすさだけでなく、使いたいと魅力を感じさせるような好ましいデザインでもなければならない。衣服の場合は、公共の場所や建築物と異なり、それぞれの人がそれぞれの衣服を着用する。したがって、ユニバーサルウェアは一人ひとりのニーズに対応したデザインの衣服として考えることができる。

老若男女、大人も子どもも、障がいのあるなしにかかわらず、誰にとってもそれぞれ着心地のよいウェアがユニバーサルウェアである。障がい者や高齢者を含む様々な人が、生理的にも物理的にも、さらに心理的にも快適と感じる衣服として、満たされた衣服がユニバーサルウェアである。

21世紀は、循環型社会、高齢化社会、あるいは人権を考慮すべき状況にある。このような中では、ユニバーサルデザインの考え方が重要になってくる。衣服においても、ユニバーサルデザインの考え方が反映されたユニバーサルウェアを考えていく必要がある。

一方、和服は、日本の伝統的な衣服であるが、着用が減少しており、かろうじて結婚式、葬式、成人式、卒業式などの儀式や伝統行事において着用がみられる現状である[2]。しかも、自分一人では着用できない人も多く、ユニバーサルとはいえない状況にある。しかしながら、浴衣については、夏季には限られているが、着る機会も比較的多く、夏祭りや花火大会、あるいは街着として、気軽に着用する若者の姿が目にとまるようになってきた。

そこで、ユニバーサルウェアとしての浴衣の可能性について検討することとした。ユニバーサルウェアに必要な条件としては、衣服の基本的な機能である暑さ・寒さから身を守ること、外界の危険物から人体や皮膚を守ること、また日常の手入れが簡単なことなどは、もちろん必要であるが、とくに、

①体の形に衣服のサイズや形があっていること、②着脱しやすいこと、動きやすいこと、③肌触りのよい素材であること、④安全な衣服であること、さらに、⑤着用者の好みや感性に合うことがあげられよう。①については、和服は洋服と異なり、衣服の方を体に合わせて着付けることができる。③については、浴衣の素材は綿であり、夏の素材としては快適であると考えられる。②と④については、着用時の行動、たとえば走る等によっては、問題になることもある。したがって、そのような点について、検討が必要であるが、本報では、②の着脱しやすいことに焦点を当て、誰でも気軽に着ることができるユニバーサルウェアとしての女性用の浴衣について検討することとした。また、着脱しやすさ等の機能性に優れていたとしても、⑤の好みや感性に合うものでなければ、心が満たされるユニバーサルウェアにはならない。そこで、その点についても検討した。

2. 方法

着脱のしやすさを考慮して改良した浴衣を2種類製作し、基本的な浴衣とともに、着用のしやすさ等について、着用実験により検討した。着用実験では、浴衣着用の所要時間を計測し、それによって着用の難易度の指標とした。また、車椅子の使用を考慮して、座位からの着用時間も計測した。さらに、浴衣を着用した状態でいくつかの動作を行い、着崩れを計測し、着崩れず、美しく保つ和服を考える上での参考とした。

実験終了後に、官能検査により、着用者としての被験者の評価を得た。

さらに、好みや感性に合うファッション性という観点から、これらの浴衣のイメージについて官能検査を行った。

2.1 着用実験

(1) 試験用衣服

和服を着用する際に難しいと感じる点の一つとしては、女性の浴衣のおはしりである。そこで、おはしりをすることなく着用できるように改良した女性用の浴衣として、おはしりなしの浴衣と上下に別れた二部式浴衣を製作した。比較のために基本的な浴衣も製作した。これらの素材としては、模様や色の影響を排除するために、白の綿金巾を用いた。また、帯を結ぶことも和服着用を困難にしているものである。そこで、帯結びを簡単にするために、つくり帯を製作した。

座位姿勢での着用については、比較のために、着脱のしやすさに配慮した洋服（シャツとパンツ）を購入し試験用衣服とした。

図1にこれらの試料の写真を示した。試験用衣服の内容は以下の通りである。

①基本型浴衣（図1(a)）：伝統的な基本的な浴衣である。

②おはしりなし浴衣（図1(b)）：対丈で着用するように、身丈を着丈として製作した。衿と衿下の丈を縮め、出来上がり寸法は基本型よりも30cm短くなるよう設定した。着用したときの外観は、おはしりがないので、図1に示すように基本型浴衣とは印象が違っている。

③二部式浴衣（図1(c)）：上下二部式にし、上部丈はおはしりの位置で折り返して、ウエストの位値でくけ、下部は巻きスカートのようにウエスト部分を紐で結ぶ形にした。帯をしめると、図1からもわかるように、みかけは普通の基本型浴衣と変わらない。

④着脱に配慮した洋服（図1(d)）：上衣は着脱しやすい前あきのもので、下衣は両脚下内側にコンシールファスナーがついている。



(a) 基本型浴衣 (b) おはしりなし浴衣 (c) 二部式浴衣 (d) 洋服

図1 試験用衣服

⑤つくり帯：文庫結びのつくり帯を製作した。ウエスト寸法に合わせて半幅帯を作成し、マジックテープを縫いつけ、マジックテープで止めるようにした。文庫の部分は別途製作し、形を固定したものを帯に縫い付けた。

(2) 被験者

被験者は、19歳から23歳までの、身長155cmから165cmの健康な女性13人である。これらの被験者は、浴衣の着用は自分ででき、文庫帯も自分で結ぶことはできるが、日常的に和服を着用している者ではない。

被験者は、若く障がいを持たない健康な人であるが、実験結果は、体の不自由な人の場合においても参考にできると考える。

(3) 着用実験の手順

実験に先立ち、被験者に3種類の浴衣の着用の仕方を説明するとともに、洋服も含め、1回ずつ着用の練習を行った。

①立位での着用時間の計測：3種類の浴衣について計測した。浴衣は和服の畳み方にしたがって畳んでおいた。被験者は下着姿の状態から着用実験を始めた。被験者の手の届く位置に浴衣を置き、合図とともに着用時間を計測した。つくり帯を締め、全体の形を整え終えた時点で実験の終了とした。試料の着用順はランダムである。

②座位での着用時間の計測：おはしりなし浴衣、二部式浴衣、洋服の3種類について、肘掛けつき椅子を車椅子に見立て、座位での着用時間を計測した。①の場合と同様に、あらかじめ1回ずつ着用の練習を行った。その際に、基本型浴衣は、座位では介助者なしでおはしりを作るのが困難であったので、実験の対象にできなかった。被験者は下着姿の状態から着用実験を始めた。浴衣については、あらかじめ椅子の上に浴衣を広げておき、被験者が椅子に座った後、合図とともに着用時間を計測した。つくり帯を締め、全体の形を整え終えた時点で実験の終了とした。洋服は、被験者の手の届く位置に洋服を置き、合図とともに着用時間を計測した。シャツとパンツの着用が終了した時点で、実験の終了とした。試料の着用順はランダムである。

③動作による着崩れ：基本型浴衣、おはしりなし浴衣、二部式浴衣の3種類の浴衣について、以下の一連の動作を行い、衿元・おくみ線・裾・背縫いの4箇所の着崩れを動作前の状態を基準にしてミリ単位で計測した。動作は、腕を横に伸ばして物を取る・腕を上伸ばして物を取る・しゃがみこ

み・正座・歩く・階段昇降15段であり、これらの動作を続けて行った。なお、試料の着用順はランダムである。

2.2 着用者の評価

立位での着用、座位での着用について、着用者による官能検査を行った。さらに、着用に関して自由記述も行った。被験者は着用実験と同じ13人である。

(1) 立位での着用における評価

立位での着用実験後、3種類の浴衣の着用、動作等に関して、SD法により、11項目の形容語対を用いて、着用者による評価を行った。

評価項目は、「着用が困難—着用が容易」、「着たくない—今後も着たい」、「ださい—おしゃれ」、「古典的な—斬新な」、「嫌い—好き」、「衿元が気になる—気にならない」、「裾が気になる—気にならない」、「背中が気になる—気にならない」、「おくみ線が気になる—気にならない」、「動にくい—動きやすい」、「窮屈—のびのび」である。評価は5段階で行い、程度に対応して、-2、-1、0、1、2のスコアをつけた。各項目とも、左側の形容語をマイナスの値とした。0はどちらでもないという評価である。

(2) 座位での着用における評価

座位での着用実験後、2種類の改良浴衣と洋服について、被験者の評価を行った。評価項目は、「最も着用が容易だったもの」、「最も着用が困難だったもの」、「最もきれいに着ることができたもの」の3項目である。

(3) 着用に関する自由記述

着用に関することについて、自由記述による回答を得た。

2.3 浴衣のイメージ評価

(1) 試料

基本型浴衣、おはしよりなし浴衣、二部式浴衣を用いた。これら3種の浴衣の着用画像（図1(a)(b)(c)）をモニター上で評価した。なお、基本型浴衣と二部式浴衣の見た目はほとんど同じであるが、これらの浴衣の情報、すなわち、基本型浴衣、おはしよりなし浴衣、二部式浴衣であることを知らせて評価を得た。

(2) 被験者

18～23歳の男女、各20名の計40名とした。

(3) 評価方法

画面の左右に表示した2種類の浴衣の着用画像について一対比較法での官能検査を行った。左右の差がないことを確認したので、3種類の試料の3通りの組み合わせにおいて、評価を行った。なお、3通りの画像の表示順はランダムである。

評価の項目は、見た目の印象について、「カジュアルな」、「斬新な」、「好き」、「親しみやすい」、「着たい・着て欲しい」、「今後普及する」、「若々しい」、「清潔感がある」、「知的」、「現代的」、「日本的」、「違和感がある」の12の形容語とした。評価は5段階で行い、程度に対応して、-2、-1、0、1、2の評点をつけた。右の画像に比べ左の画像が形容語に合致している場合をプラスと評価した。0は両方の画像に差がない場合である。結果の解析はシェッフェの方法（中屋の変法）を用いた。

3. 結果および考察

3.1 着用時間について

立位での基本型、おはしよりなし、二部式の3種類の浴衣の平均着用所要時間を図2に示した。最も着用時間がかかったものは、基本型浴衣の294秒であった。次いで二部式浴衣 203秒、おはしよりなし浴衣 141秒となった。基本型浴衣で時間が多くかかったのは、おはしよりを作る作業に手間がかかったためである。それに対し、おはしよりなしは、容易に着用できた。これは、腰紐が一本でよいという点と、二部式のように上下に分離していないという点が時間の短縮につながったと思われる。二部式浴衣については、上下に分離しているとともに、和服の着用方法としては特殊であったため、おはしよりなし浴衣と比べると若干時間がかかったと思われる。

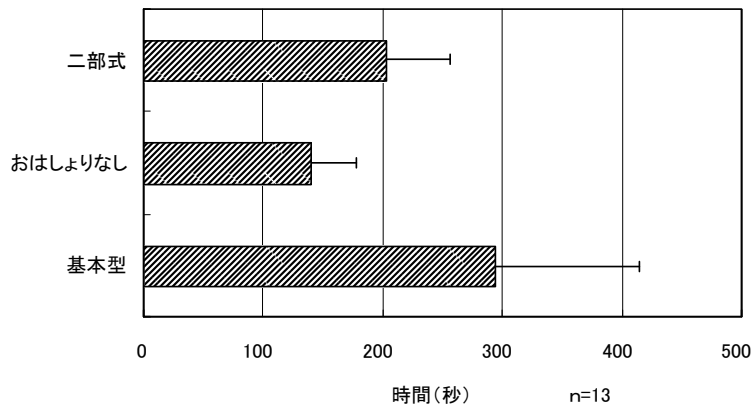


図2 立位での浴衣着用の所要時間 ($p<0.01$)

座位での浴衣および洋服着用における平均所要時間について、図3に示した。座位での着用実験で最も時間がかかったものは、洋服の185秒であった。次いで、二部式浴衣177秒、おはしよりなし浴衣152秒となっていた。改良浴衣の着用所要時間は、洋服の場合と比べて短かった。浴衣については、被験者が椅子に座る前にあらかじめ椅子の上に浴衣を広げておいたため、下半身をほとんど動かすことなく着用できたことが、着用の容易さをもたらしたと思われる。また、座位での二部式浴衣の着用所要時間が、図2の立位の場合よりも短縮された点についても、あらかじめ椅子の上に浴衣を広げておいたことによると考えられる。また、おはしよりなしは、座位で着用した方が時間がかかったが、これは裾の右前と左前を揃えるために時間がかかったためである。

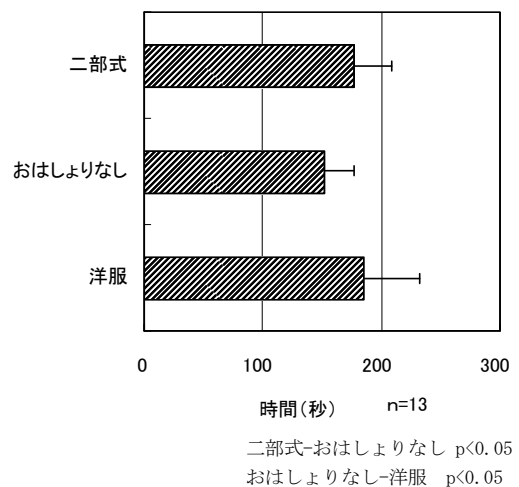
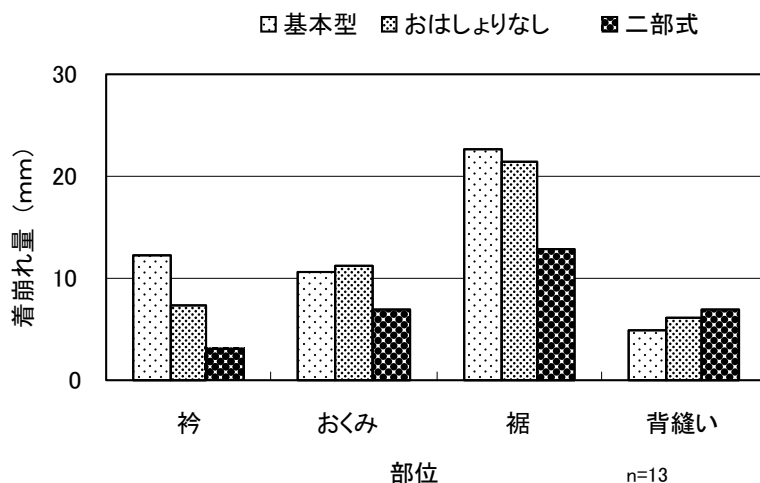


図3 座位での浴衣着用の所要時間

3.2 着崩れについて

動作前の状態を基準にして外側にずれた場合はプラス、内側にずれた場合はマイナスとして計測し、絶対値の平均値を図4に示した。裾のずれ方が大きく、着本型とおはしよりなしのずれは2cm以上であった。裾以外の場所における動作後の着崩れはあまり大きくはなかった。



衿 基本型-おはしよりなし $p < 0.05$, 基本型-二部式 $p < 0.01$
 おくみ おはしよりなし-二部式 $p < 0.01$, 基本型-二部式 $p < 0.05$

図4 動作後の浴衣の着崩れ量

浴衣による違いは、基本型浴衣とおはしよりなし浴衣の着崩れが大きかった。二部式浴衣の着崩れは少なかった。上下を分離することによって着崩れを抑えることができることがわかった。

3.3 着用者の評価

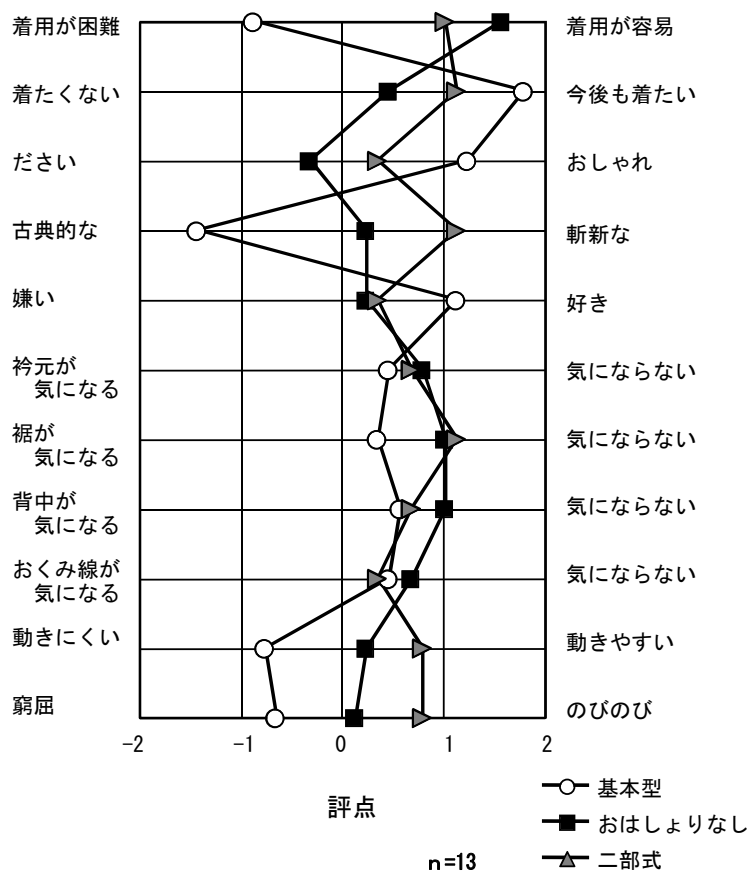
図5に立位での浴衣着用後の着用者の評価を示した。

基本型浴衣は、他の浴衣に比べ、「着用が困難」、「動きにくい」、「窮屈」と感じていたことがわかる。それにもかかわらず、「今後も着たい」、「おしゃれ」、「好き」と感じていた。また、「古典的」と評価していた。一方、おはしよりなしの浴衣については、基本型に比べ、「着用が容易」、「動きやすい」、「のびのび」は高い評価であったが、「今後も着たい」や「おしゃれ」は低い評価であった。二部式浴衣は、おはしよりなし浴衣と同様の傾向を示していたが、「今後も着たい」、「おしゃれ」、「斬新」、「動きやすい」、「のびのび」について、おはしよりなし浴衣より高い評価であった。

衿元、裾、背中、おくみ線の着崩れが気になるかどうかについては、いずれの浴衣もあまり気になっておらず、裾について、基本型浴衣の気にならない程度が若干小さかったが、浴衣による大きな評価の差がなかった。

ユニバーサルウェアとしては、機能的に優れているばかりではなく、見た感じも素敵であり、好ましい必要がある。二部式浴衣は、いずれも満足していた。

座位での試験衣服着用後の着用者の評価について、「最も着用が容易だったもの」との回答は、二部式浴衣が被験者13人のうち10人と多数であり、おはしよりなし浴衣が2人、洋服が1人であった。



「着用が容易」「今後も着たい」「おしゃれ」「斬新な」「動きやすい」：
基本型-二部式、基本型-おはしよりなし $p < 0.01$
「のびのび」：基本型-二部式 $p < 0.01$, 基本型-おはしよりなし $p < 0.05$

図5 着用者の評価

逆に、「最も着用が困難だったもの」は、洋服と回答した被験者が11人と多数であり、おはしよりなし浴衣が2人、二部式浴衣は0人であった。二部式浴衣は上下が分離しているため、上衣の袖に簡単に腕を通すことができることが、容易に着用ができるとの評価に結びついたと思われる。また、洋服は下衣に臀部を入れるという動作が大変だったことが、困難との評価になったと考えられる。「最もきれいに着ることができたもの」は、洋服という回答が7人、二部式浴衣が4人、おはしよりなし浴衣が2人という結果であった。洋服は人体に合わせるように裁断・縫製されており、普通に着ればきれいに着ることができるため、このような評価になったと思われる。おはしよりなし浴衣は、座位から着用すると下前が長く、上前が短くなってしまったため、最もきれいに着用できたと評価した被験者は少数となった。以上のことから、二部式浴衣は、着用が容易で、比較的きれいに着付けられることがわかった。

着用に関する評価として自由記述であげられた意見を、立位での着用、座位での着用、および動作に関しての項目別に、表1に示した。()内の数字はその意見をあげた人数を示している。自由記述の内容は、2種類の着用実験および着用者の主観評価と一致していた。

表1 着用に関する自由記述

n=13

項目	試料	記 述
立位での着用	<ul style="list-style-type: none"> ・基本型浴衣 ・おはしよりなし浴衣 ・二部式浴衣 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本型の着用が一番難しいと思った。 ・基本型は着用が難しいが、「浴衣を着ている」という感じがして好き。 ・おはしよりなしは簡単に着用することができた。(2) ・おはしよりなしはかっこ悪い。(2) ・二部式はおはしよりを作る必要がないので楽。(2) ・二部式は着用方法が慣れなくて戸惑った。 ・二部式は着用方法が面白い。 ・二部式は着やすいが、上と下があっているか不安になる。(3) ・二部式は衣文抜きができない。 ・二部式は見た目が基本型と変わらない。(2)
座位での着用	<ul style="list-style-type: none"> ・おはしよりなし浴衣 ・二部式浴衣 ・洋服 	<ul style="list-style-type: none"> ・浴衣が簡単に着用できた。 ・おはしよりなしは下前が飛び出て、ガタガタになった。(2) ・おはしよりなしの上前と下前を合わせると衿が乱れた。 ・洋服のズボンはジャージのようで引っ張って着用することが可能だった。 ・ズボンにファスナーが付いていることで容易に足を通すことができた。 ・ズボンをでん部から腰まで引き上げることが難しかった。(4) ・洋服がださい。
動作	<ul style="list-style-type: none"> ・基本型浴衣 ・おはしよりなし浴衣 ・二部式浴衣 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の上りの際に特にズレを感じた。(3) ・正座をするときに動作の中で一番ずれると思う。(5) ・おはしよりなしで正座をするのが一番ずれたと思う。 ・おはしよりなしは上半身を動かすとずれる。 ・二部式が一番動きやすかった。 ・二部式は正座をするときに一番ずれないと思った。 ・二部式は上半身がずれているような気がした。(2)

() 内は回答した人数

3.4 イメージ評価

3種類の浴衣について、各評価項目の推定値（全体、女性、男性）を表2に示した。形容語に対して当てはまる場合がプラスとなっている。

40人全員の評価によれば、「好き」、「親しみやすい」、「着たい・着てほしい」の値は、基本型がもっとも大で、次に二部式、おはしよりなしが小であった。「知的」と「日本的」は、基本型がもっとも大で、二部式とおはしよりなしは同程度であった。「清潔感がある」は、基本型がもっとも大で、次におはしよりなし、二部式が小であった。

一方、「違和感がある」、「斬新な」、「現代的」の値は、おはしよりなしが大で、次に二部式、基本型が小であった。「カジュアルな」は、二部式とおはしよりなしは同程度で、基本型は小であったが、それらの差は小さかった。「若々しい」は、二部式がもっとも大で、次におはしよりなしで、基本型が小であったが、それらの差は小さかった。「今後普及する」は、3種類の浴衣の差がほとんどなかった。

これらの評価には、男女の差があった。とくに、「好き」、「親しみやすい」、「着たい・着てほしい」、「知的」、「日本的」は、女子では基本型が大きく、次が二部式、おはしよりなしは小さく、それらの間の差が大きいのに対し、男子は3種類の浴衣に対する評価の順位が女子と異なっているものもあるとともに、それらの差が小さいか、あるいはほとんどなかった。また、「斬新な」と「現代的」は、女子はおはしよりなしにおいて大きかったのに対し、男子は二部式が大きかったが3種類の浴衣の差

表2 3種類の浴衣のイメージの推定値

(全体 n=40, 女子 n=20, 男子 n=20)

項 目	基本型浴衣			おはしよりなし浴衣			二部式浴衣		
	全体	女子	男子	全体	女子	男子	全体	女子	男子
カジュアルな	-0.14	-0.23	-0.05	0.05	0.27	-0.17	0.09	-0.03	0.22
斬新な	-0.17	-0.28	-0.05	0.17	0.43	-0.10	0.00	-0.15	0.15
好き	0.38	0.73	0.02	-0.42	-0.72	-0.12	0.04	-0.02	0.10
親しみやすい	0.33	0.63	0.02	-0.33	-0.55	-0.12	0.01	-0.08	0.10
着たい・着て欲しい	0.29	0.53	0.05	-0.31	-0.53	-0.08	0.02	0.00	0.03
今後普及する	0.05	0.17	-0.07	-0.03	0.00	-0.05	-0.03	-0.17	0.12
若々しい	-0.09	-0.12	-0.07	-0.02	0.08	-0.12	0.11	0.03	0.18
清潔感がある	0.31	0.57	0.05	-0.04	-0.25	0.17	-0.27	-0.32	-0.22
知的	0.30	0.53	0.07	-0.17	-0.50	0.17	-0.13	-0.03	-0.23
現代的	-0.11	-0.22	0.00	0.12	0.37	-0.13	-0.01	-0.15	0.13
日本的	0.32	0.48	0.15	-0.20	-0.63	0.23	-0.12	0.15	-0.38
違和感がある	-0.24	-0.45	-0.03	0.23	0.53	-0.08	0.02	-0.08	0.12

「カジュアルな」 基本型-おはしよりなし 女子 $p<0.05$ 、基本型-二部式 全体 $p<0.01$ 、男子 $p<0.05$ おはしよりなし-二部式 男子 $p<0.01$ 「斬新な」 基本型-おはしよりなし 全体、女子 $p<0.01$ 、基本型-二部式 全体、男子 $p<0.05$ おはしよりなし-二部式 全体、男子 <0.05 、女子 <0.01 「好き」「親しみやすい」「着たい・着て欲しい」 全体、女子のいずれの組み合わせとも $p<0.01$ 「若々しい」 基本型-二部式 全体、男子 $p<0.05$ 、おはしよりなし-二部式 男子 <0.05 「清潔感がある」 基本型-おはしよりなし 全体 $p<0.05$ 、女子 $p<0.01$ 、基本型-二部式 全体 $p<0.01$ 「知的」 基本型-おはしよりなし 全体、女子 $p<0.01$ 、基本型-二部式 全体、女子 $p<0.01$ 、男子 $p<0.05$ おはしよりなし-二部式 女子 $p<0.05$ 、男子 $p<0.01$ 「現代的」 基本型-おはしよりなし 全体 $p<0.05$ 、女子 $p<0.01$ 、おはしよりなし-二部式 女子 $p<0.01$ 「日本的」 基本型-おはしよりなし 全体、女子 $p<0.01$ 、基本型-二部式 全体、女子、男子 $p<0.01$ おはしよりなし-二部式 女子、男子 $p<0.01$ 「違和感がある」 基本型-おはしよりなし 全体、女子 $p<0.01$ 、基本型-二部式 全体、女子 $p<0.05$ 、おはしよりなし-二部式 全体 $p<0.05$ 、女子 $p<0.01$

は小さかった。女子の場合は、全体的にみると、基本型浴衣とおはしよりなし浴衣の評価は対極にあり、二部式浴衣はその間にあった。男子の場合は、全体的にみると、二部式浴衣とおはしよりなし浴衣の評価が対極にあり、基本型浴衣はその間にあったが、それら3種類の浴衣における評価の差は女子に比べてかなり小さかった。

これらの結果から、被験者は、基本型浴衣は、清潔感があり、知的で、日本的で、違和感がなく、親しみやすく、好きで、着たい・着てほしいと感じていることがわかる。一方、おはしよりなし浴衣は、その逆で、日本的でなく、知的でなく、親しみやすくなく、違和感があり、好きでなく、着たい・着てほしいと思わないこと、さらに斬新で、現代的と感じていることがわかる。また、男女で評価の違いが大きいが、これは、女子は基本型浴衣に対して好ましい印象を強くもっており、おはしよりなしには価値をあまり認めていないのに対し、男子はそのような印象があまりなく、いずれの浴衣にも大きな違いを認めていないことによると考えられる。男子の場合、おはしよりの有無が評価に大きな影響を与えていないのは、男子の浴衣にはおはしよりがないという点が影響していると考えられる。また、二部式浴衣は基本型浴衣と見た目は変わらないが、女子の評価には、これらの間にかかなりの差がみられた。女子は、視覚で評価するだけではなく、二部式浴衣であること自体が評価に影響を与えたものと思われる。

4. おわりに

着用実験と官能検査の結果、基本型浴衣は、簡単に着られる点については2種類の改良浴衣に劣るとともに、着崩れしやすいが、着用者の主観評価とイメージ調査の女子の評価において、好感度が強いことがわかった。しかしながら、イメージ調査の男子においては、基本型と他の2種類の浴衣の差が小さく、女子の好感度は、これまでの経験、和服や浴衣はこうあるべきものだという観念に影響していることが伺われる。したがって、そのような既成観念が解消されれば、着脱の容易な和服、浴衣が普及していくことになると思われる。

誰もが「着たいものを着ることができる」状態が実現するためには、誰でも和服を着たいと思ったときに、気軽に着用することができることが重要である。とくに、二部式浴衣は、着用が容易で、きれいに着付けることができ、着崩れしにくい上、座位からの着用についても、着脱を配慮した洋服よりも容易であった。見た目も基本型と変わらないので、誰でも気軽に着ることができるユニバーサルウェアとしての発展が期待できる。

文献

- [1] 梶本久夫監修：ユニバーサルデザインハンドブック、丸善、p.138(2003)
- [2] 清水裕子、佐々木和也、張永春：着物と浴衣の着装実態と今後の発展、宇都宮大学教育学部紀要 59号第1部、p.89-96（2009）